

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第194号

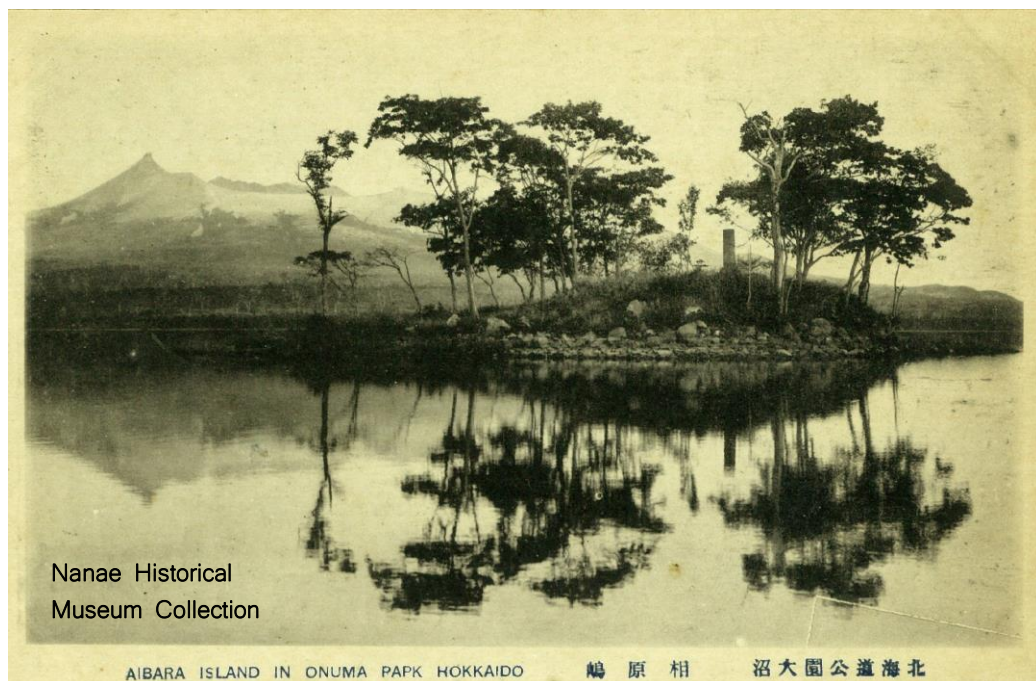
ななえ古写真物語 VOL.194

伝説の真贋

相原周防守の伝説

昭和初期か？

大沼地区



「百二十六島 晴れて水の秋」この句は、児童文学者である巖谷小波（さざなみ）が、大正8年に大沼へ来遊した時に詠んだ句である。本当に126島なのかは、数えたことがないので断言できないが、島々には名前が付けられているものもあり、それらには、何らかの歴史的な理由がある。今回紹介する写真は「相原島」。

名前の由来は、相原周防守政胤・季胤親子が関係している。大沼地区には彼らの伝説がいくつか残っており、例えば、七重浜の戦いで敗れ、城山（現在の七飯町藤城）の壘を奪われ、茅部へ逃れようとした相原周防守政胤が騎馬で駒ヶ岳へ行き鞍を乾かしたことがある。（大沼郷土誌）とか、永正16年（1519年）、アイヌの蜂起によって城を攻められた相原周防守季胤は、二人の姫を連れ逃げる途中、大沼で追撃にあい、姫たちは入水。季胤は愛馬の鞍を解いて、そばにある岩にかけて置いた。これが今の鞍掛岩であり、その後、愛馬は主君の季胤が入水したあたりに向かって3度嘶いた後、秀峰に駆け上って姿をくらました。以降、いつの頃からかこの秀峰を「駒ヶ岳」と呼ぶようになった（大沼郷土誌）。などなど、政胤と季胤が混同した言い伝えがあり、島には、明治36年に建立した相原氏を祀る石碑が（現在設置されているのは2代目の石碑）写っている。

松浦武四郎が記した『蝦夷日誌』（1845年頃の紀行誌）の中で、文化4年（1807年）に、ロシアの驚異のため箱館への出張を命じられた堀田正敦が記した「陸奥紀行」を引用し、相原周防守の伝説を紹介している。このことから、江戸時代後半期には庶民の間に相原氏の伝説が浸透し、入水の悲劇、愛馬の話などをベースに、相原親子の伝説が生まれたのだろう。

ところが、彼らが活躍した時代において駒ヶ岳も大沼などの湖も、現在と違う姿であったことが、地質学による分析により証明されている。最も有力な説は、1640年に起こった駒ヶ岳の大噴火の時に岩屑なだれが生じ、折戸川がせき止められて、大沼が現在の姿になったというものだ。そうなると、伝説の時代には、大沼は今よりも小さく浅い湖、もしくは河川に隣接した湿地だった可能性が高く、入水も馬の鞍もかけることが出来なかったことになる。

一方で、伝説で語られる情景は、現在の大沼を彷彿とさせる記述が多い。それは、伝説自体が現在形となった大沼と駒ヶ岳の姿を基に作られたからなのだろうか？今とは違う形の大沼だった可能性はあるので、一概に嘘とはいえないが、伝説とは科学的な根拠がなくても、人々の希望や願いから生まれるものなのだろう。伝説の真贋はいかに？？

10日 夜の博物館

第2夜は「道南の交通史」と題し、北海道教育大学函館校の奥平氏を講師にお迎えし、函館本線の歴史や大沼電鉄、路面電車の歴史など、懐かしい車体の写真やテンポよく楽しいお話に、時間はあっという間に過ぎていきました。忘れてはならない、日本海難史上最大の惨事である洞爺丸事故のお話、青函連絡船が果たした、人と経済を結びつけた、大きな役割は、合点がいく箇所が多くありました。1時間という講座の中で、多くの笑いも学びもあった楽しい時間でした。



27日 ジュニア探検クラブ

「先が尖る」「左右対称」「大きくても4mm以下」。これはある石器の特徴です。ジュニア探検クラブで、子どもたちが挑んだのは、「石器づくり」。丁寧に教えて下さったのは、今金町教育委員会学芸員の宮本雅通氏。この日は矢じりを作りました。「とても地味な作業です」という宮本さん。どうつながるかという先々を見る作業に四苦八苦しながらも、自分だけの矢じりは無事に皆の手の平で輝いていました。



4月から月曜日に休館日をもうけます。

歴史館は、長らく年末年始の休館日（12月29日～1月3日）を除き、開館しておりましたが、今年4月より毎週月曜日（祝日の場合は、翌日）が休館日に加わることになりました。ご利用されている皆さんにとっては、ご不便をお掛けすることもあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。玄関や館内にもポスター等で掲示しております。お問い合わせは歴史館（午前9時～午後5時）までお願い致します。

4月1日より休館日が変わります

当館では、下記のとおり休館日を変更いたします。
ご不便をおかけしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

- 月曜日（祝日の場合、翌日になります）
- 年末年始（12月29日～1月3日）

七飯町歴史館 館長

1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水 夜の博物館後期講座 第4夜
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水 春分の日
21	木
22	金
23	土 ジュニア探検クラブ
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

※3月の休館日はありません。

失 失(やたて)

昔の携帯筆記具。小学校の見学で紹介する道具の一つで、「何に使う道具？」と聞くと、ほぼ「タバコ！」と答えます。

編集後記 ~tawagoto~

今年も小学3年生の見学授業が始まった。昔の道具についての解説やワークシート、石臼や薬研の体験を通して、道具の変遷を知ってもらう恒例と言える授業だ。児童たちは、箱枕を見て、筆箱と言い、黒電話の使い方を聞いて、手間の多さに驚く。時代と共に、より便利な方へと道具は暮らしの中で変化する。でも、ちょっとは考えたい。買うより前に自らの手で作ること、直すことはできないだろうか。

Richard ~ピチャリ~

第194号
令和6年2月20日発行
七飯町歴史館
〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp